

活動レポート

道央技術士会

文責：道央技術士会幹事 高石富生

第22回総会及び講演会

はじめに

去る4月19日(金)に行われました「第22回道央技術士会総会及び講演会」について報告します。

開催日：2013年(平成25年)4月19日(金曜日)

開催場所：ホテルサンルート室蘭

時間：17:00～20:00

道央技術士会の総会は、室蘭と苫小牧で交互に開催されており、今年は、室蘭での開催となりました。

講演会は、室蘭工業大学材料物性工学科の後藤龍彦教授に「地殻ストレスとともに」という演題でご講演いただきました。

その後、総会に移り、議題の審議の結果、代表幹事の交代と幹事2名の増員が承認され、新代表幹事の永澤正則氏(建設部門：(株)メイセイ・エンジニアリング)のご挨拶がありました。次に、北海道本部事務局次長長井智典氏より技術士および技術士会の状況についてご紹介いただきました。その後、技術情報交換会を行いました。参加者は17名でした。

1. 講演会「地殻ストレスとともに」

講師：後藤龍彦教授

室蘭工業大学 材料物性工学科



後藤龍彦教授のご講演

概要：東日本大震災以降、エネルギーについての関心が高まりつつあります。エネルギーとは本来、国家の重要な根幹をなすものです。しかし、我が国では石炭から石油への移行が余りにもスムーズに進んだため、エネルギーに関しての関心が低かったようです。

戦前、我が国の産業を支えたのは石炭です。道内では100社以上の坑内掘り炭鉱が稼働していました。しかし、深部化による災害の多発や輸入炭との炭価格差により、現在ではたった1社のみとなっています。講演では炭鉱事故災害の主因の一つである地殻ストレスに着目し、道内炭鉱の変遷について話されました。



講演会会場の様子

後藤先生は、道内炭鉱の安全採掘のための研究に取り組まれご尽力されました。講演では、先生の研究成果、道内炭鉱の歴史、現在の日本のエネルギー事情と今後の見通しについてお話しがありました。

東日本大震災の福島原発事故以来、電源構成(ベストミックス)について論議されていますが、我が国に埋蔵されている石炭も考慮される可能性があることを感じさせられました。

2. 総会

(1) 議事

①代表幹事の交代

平成 21 年 4 月より 4 年間、代表幹事としてご尽力いただいた岸明仁氏(機械、総監：栗林機工(株))に代わり、新代表幹事として永澤正明氏(建設：メイセイ・エンジニアリング(株))が推挙され、満場一致で承認されました。



新代表幹事 永澤正明氏のご挨拶

②幹事の増員

会の活性化を図るため、現在 1 名の幹事を 2 名増員して 3 名体制にすることが提案されました。室蘭地区から、赤間英一氏(機械：(株)榎崎製作所)が、苫小牧地区から長谷川哲也氏(建設：(一社)北海道開発技術センター)が推挙され、全会一致で承認されました。

③事務局からのお知らせ

事務局より、平成 25 年度の行事活動予定(7 月、11 月の施設見学会・講演会、総会)と参加のお願い、新規会員勧誘のお願いがありました。

(2) 北海道本部事務局次長の挨拶

北海道本部事務局次長長井智典氏より、「技術士会及び技術士をめぐる最近の動向」についてお話をさせていただきました。

平成 24 年度技術士第一次試験および第二次試験の結果、北海道本部の会員数、統括本部(理事会等)からの話題、北海道本部からの話題がありました。

第 40 回技術士全国大会が、いよいよ今年 10 月に札幌で開催されるため、協力の要請がありました。



北海道本部事務局次長長井智典氏のご挨拶

3. 技術情報交換会

新代表幹事の永澤正則氏(建設部門：(株)メイセイ・エンジニアリング)の乾杯の音頭で技術情報交換会が開会されました。



新代表幹事 永澤正則氏の乾杯のご発声

講演会の内容についての質問などと合わせて、技術部門・世代・業種を問わず、会場全体で技術情報交換が活発に行われました。

最後に、新幹事に就任された赤間英一氏(機械：(株)榎崎製作所)の締めめの発声を持って盛会の内に閉会いたしました。

おわりに

代表幹事岸明仁氏におかれましては、4 年間にわたり機械部門の技術士として、会の発展にご尽力いただきました。本当にお疲れ様でした。

今後は、新代表幹事、新幹事と協力しながら、さらに会の活性化に努めて行きたいと思えます。